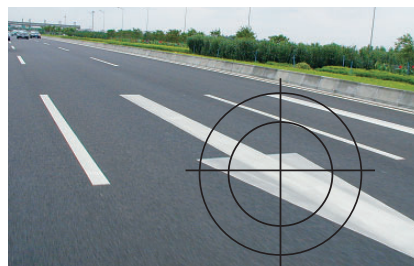
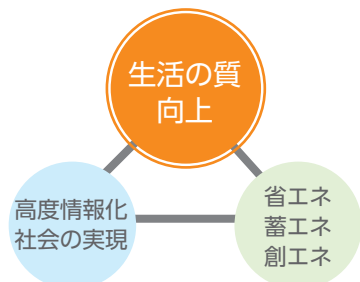


＼ 身近なところに日本ゼオン ＼

世界中の道路で、家庭で一。 皆様の豊かな暮らしを支えるゼオンの樹脂。

C5留分*から製造する石油樹脂は、粘着剤・ホットメルト接着剤、あるいは道路の白線・黄線や横断歩道などのトラフィックペイント用バインダーなど幅広い用途において優れた性能を発揮し、近年その需要が伸びています。従来からの欧米での需要に加えて、生活水準の向上が進むアジア地域においても紙オムツなどの衛生用品向けを含めた粘着剤用途、トラフィックペイント用途でますます需要の伸びが見込まれているところです。ゼオングループでは、世界中のあらゆる場所で皆様の身近な「生活の質 (Quality of Life)」向上に貢献すべく、引き続きグローバル供給体制の強化に努めてまいります。

※C5留分:ナフサを精製して作られる、炭素原子を5個持つ炭化水素類



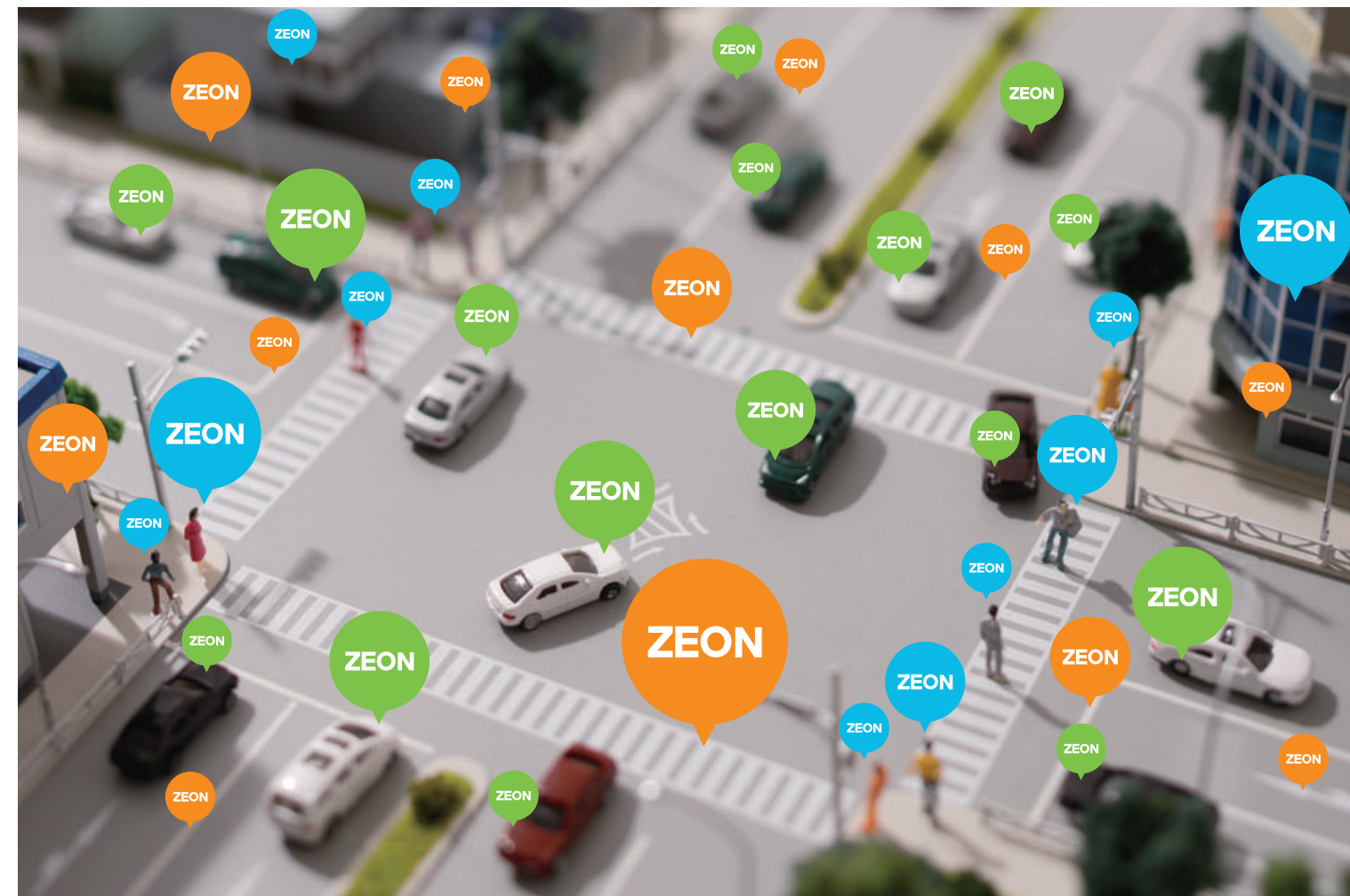
タイ子会社の増設によりグループ生産能力を倍増

ゼオンケミカルズタイランド社(タイ国)の新規製造プラント増設工事が昨年9月に完了。日本ゼオン水島工場と併せてグループ全体で年産8万トンとなったC5石油樹脂生産能力で、旺盛な需要にお応えしてまいります。



日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話03 (3216) 1772



株主のみなさまへ 第89期 年度報告書

2013年4月1日 ▶ 2014年3月31日

日本ゼオン株式会社

証券コード：4205

新中期経営計画 『SZ-20 Phase II』では 改革・改善を推進します。



取締役会長 古河直純 取締役社長 田中公章

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに、第89期(2013年4月1日から2014年3月31日まで)の報告書をお届けいたします。

Q 2013年度は増収増益を達成されました。
今年度の振り返りをお願いします。

A 当期純利益は過去最高を更新し、配当も年1円の増配となりました。

2013年度の売上高は、前期比18%増の2,964億円、経常利益は同29%増の326億円となりました。増収増益の牽引役となったのは高機能材料事業であり、特にデジタル機器向けの光学フィルムは、当社が開発した世界初の技術をテコに、テレビ向けが大きく伸長しました。主力のエラストマー素材事業では、海外市況の悪化により営業利益が前期を下回りましたが、このマイナスを補っての増益確保となります。当期純利益は過去最高を更新し、年間配当金も前期実績から1円の増配とさせていただきます。

なお、2013年度は中期経営計画『SZ-20』の最終年度でした。当初計画していた2013年度売上目標の3,200億円には未達となりましたが、これは二つの柱の一つである高機能材料事業において需要の立ち上がりが見込めず遅れたことが主因です。現在は当社製品の評価の高まりを追い風に、キャッチアップを急ぐ段階に入っています。また、もう一つの柱のエラストマー素材のグローバル体制構築では、ほぼ計画通り海外生産拠点の稼働を実現することができました。概して『SZ-20』では満足いく成果を得たと感じています。ただし、同時に市場環境変化に迅速に、かつ十分に対応できる体制が構築できていないことも明らかとなってきました。これについては、新中期経営計画である『SZ-20 Phase II』の課題となると位置づけています。

Q 『SZ-20 Phase II』について、
その考え方や狙いをもう少し詳しくご説明ください。

A 「2020年のありたい姿の実現に向け、
会社を“変える”」3ヶ年計画と位置づけています。

2016年度をターゲットとするPhase IIは、『SZ-20』で掲げた目標(2020年度売上高5,000億円、営業利益率10%)の実現に向けての第二段階という位置づけとなります。Phase Iに相当する前回の中期経営計画『SZ-20』が事業拡大や生産体制構築に焦点を当てたのに対し、Phase IIでは、仕組みの大胆な変革を推進し、全社で「変える」風土の醸成を図る方針です。当社を取り巻く事業環境は大きく変化しており、情報社会の進化や環境・エネルギー問題などはまさに激変と言ってよい時代を迎えています。従来の考え方ややり方の延長線上の発想にこだわってはいけません。「2020年のありたい姿」の実現が覚束なくなりかねません。Phase IIで会社を抜本的に「変え」、変化に積極的に対応していく企業風土を構築してまいります。

企業理念 大地の永遠と人類の繁栄に貢献するゼオン

CSR基本方針

- ・コンプライアンスを徹底し、社会の安全・安心に応える。
- ・企業活動を通じ、社会の持続的発展と地球環境に貢献する。
- ・一人ひとりがCSRを自覚し、行動する。

重要な価値観 スピード 対話 社会貢献

**大切に
ゼオンらしさ** 仲間との相互信頼

2020年のありたい姿

—化学の力で未来を今日にするZEON—

実現に向け、従来のやり方・考え方を抜本的に見直し
会社を“変える”3ヶ年

新中期経営計画 **SZ-20** Phase II

連結財務ハイライト

売上高	2,964億円	↑
前期比	18.2%増	
経常利益	326億円	↑
前期比	29.1%増	
当期純利益	197億円	↑
前期比	33.2%増	

Q 『SZ-20 Phase II』の事業セグメント別戦略をお聞かせください。

A 主力のエラストマー素材ではグローバル対応の強化が、成長を担う高機能材料では重点3事業での高付加価値製品の創出が柱です。

エラストマー素材では、原料調達方法や生産体制の抜本的見直しなど、これまでの枠を超えた最適化を図り、成長市場へのグローバル対応を推進する計画です。具体的には、S-SBRでシンガポール工場第二系列の増設を行うほか、C5ケミカル事業の海外展開、NBRにおける世界4工場の生産最適化など、数多の施策を展開してまいります。

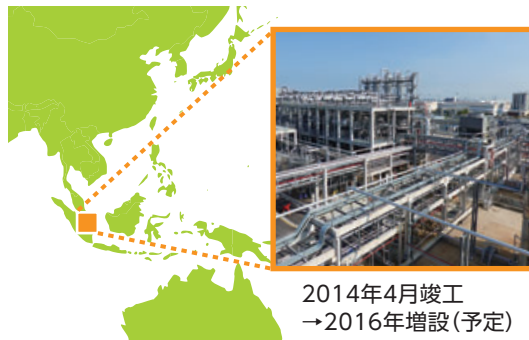
高機能材料では、情報、エナジー、メディカルの重点3事業への注力を継続し、当社の要素技術をテコに市場の創造、育成、拡大を図っていきます。情報用部材では一段の伸長を見込むのに加え、リチウムイオン電池向けなどのエナジー用部材やメディカルデバイス分野で市場を拡大していく方針です。

重要なのは、個の最適化を超えて全体最適化を推進することです。そのためには自前主義から決別し、必要であれば外部からの技術、ノウハウの導入をも厭いません。社員一人ひとりがみずから「変わる」「変える」意識を持ち、気づき、考え、行動し、その火を大きな変化に拡げていく「たいまつ活動」を推進し、2020年度の目標達成に向けて前進してまいります。

エラストマー素材事業

成長市場へのグローバルな対応による強い事業の更なる強化

シンガポール工場を改革の旗印にグローバルでの最適化を図る。



2014年4月竣工
→2016年増設(予定)

高機能材料事業

重点3事業分野での研究開発の加速による事業拡大

高度情報化
社会の実現

省エネ・蓄エネ・
創エネ

QOL(生活の質)
向上

高機能材料事業の重点3事業分野

情報用部材 (オプト用) (実装用) (電子用) エナジー用部材 メディカルデバイス

高機能素材

(C5総合利用による差別化素材を出発点)

Q では、そのPhase IIの初年度となる2014年度について、業績の見通しをお聞かせください。

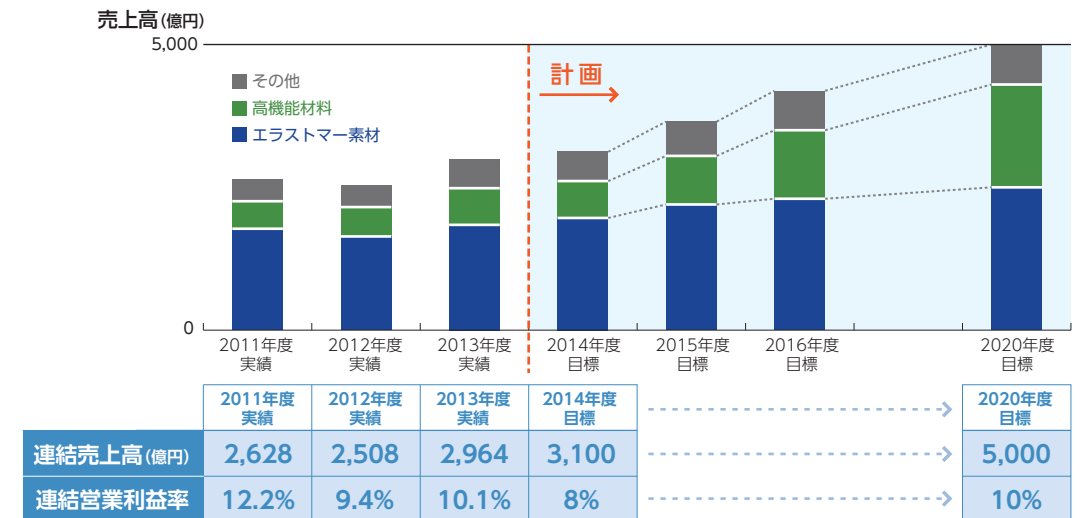
A 増収減益見通しながら、さらに増配を計画しています。

2014年度は売上高3,100億円、営業利益250億円を想定しています。2013年度と比較すると増収を見込むものの、営業利益は50億円程度の減益見通しとなります。需要は自動車関連や情報機器向けを中心とした拡大継続から、エラストマー素材・高機能材料ともに増収を見込む一方、高機能材料では価格の低下が、エラストマー素材では市況の悪化が、それぞれ利益の圧迫要因になる見通しです。厳しいPhase IIのスタートとなりますが、一層のコストダウンを急ぐとともに、むしろ「変える」風土醸成のチャンスと捉えて抜本的な変革に繋げてまいります。

配当に関しても、さらに1円の増配の年14円を計画しております。『SZ-20 Phase II』で掲げた企業風土の変革は決して容易ではありませんが、2020年度の目標達成のためには避けられない大きな挑戦でもあります。目標達成に向けて社員一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様には一層のご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2020年度 連結売上高5,000億円を目指す。



会社基盤を支える事業

エラストマー素材事業部門

合成ゴム／合成ラテックス／化成品

売上高構成比 **61.6%**

売上高

1,843億51百万円

12.4% ↑

(前期比)

売上高の推移

(単位: 百万円)

年度	中間期	通期
2010年度	86,306	174,825
2011年度	89,482	177,547
2012年度	85,296	164,028
2013年度	92,167	184,351


概要

合成ゴム
海外子会社における市況の悪化等の影響があったものの、円安を背景にした拡販が進み販売数量を伸ばしたことから、全体の売上高は前期を上回りましたが、営業利益は前期を下回りました。

合成ラテックス
手袋向けの販売が振るわなかった一方、樹脂改質向けや一般工業用途向けの国内販売が堅調に推移したことから、全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

化成品
国内市場における石油樹脂および熱可塑性エラストマーの販売低調の影響はあったものの、モノマー販売が期を通じて堅調に推移し、円安を背景に海外市場での販売も好調だったことから、全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は1,843億51百万円(前期比12.4%増)、営業利益は193億22百万円(同1.4%減)となりました。



製品用途例

新規展開を中心とする事業

高機能材料事業部門

高機能樹脂・部材／情報材料／化学品／医療器材

売上高構成比 **21.4%**

売上高

641億54百万円

24.8% ↑

(前期比)

売上高の推移

(単位: 百万円)


年度	中間期	通期
2010年度	28,902	53,906
2011年度	25,946	48,134
2012年度	23,019	51,411
2013年度	33,004	64,154

高機能樹脂・部材
高機能樹脂関連では、輸出を中心に医療用途・光学レンズ用途の販売が堅調に推移しました。高機能部材関連でも、テレビ向け光学フィルムが好調で販売数量および売上高を伸ばしたことから、高機能樹脂および部材全体では売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

情報材料
電池材料の販売は好調でしたが、電子材料やトナー等の売上高は前期を下回ったため、全体では売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

化学品
円安の影響に加え、特殊化学品において拡販活動が進んだことにより、全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

●当事業部門全体の売上高は641億54百万円(前期比24.8%増)、営業利益は91億21百万円(同249.1%増)となりました。



製品用途例

その他の事業部門

RIM 配合液・成形品／塗料／ブタジエン抽出技術等の技術販売 ほか

売上高構成比 **17.0%**

売上高

507億98百万円

35.4% ↑


(前期比)

売上高の推移

(単位: 百万円)

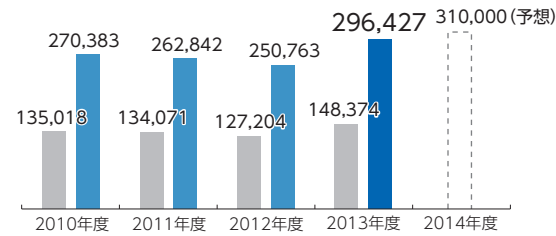
年度	中間期	通期
2010年度	20,489	43,121
2011年度	19,641	39,057
2012年度	19,802	37,508
2013年度	24,632	50,798

●商事部門の販売が増加したことおよび塗料事業の子会社化などにより、全体の売上高は507億98百万円(前期比35.4%増)、営業利益は14億88百万円(同0.1%減)となりました。

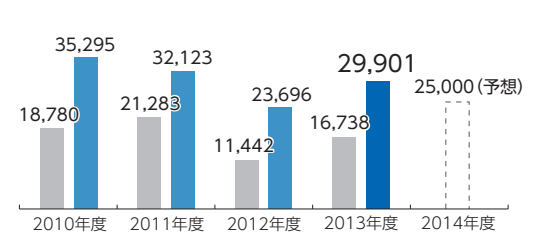


製品用途例

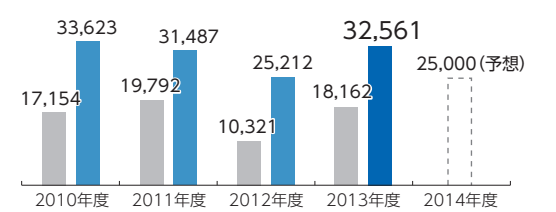
売上高 (単位: 百万円)



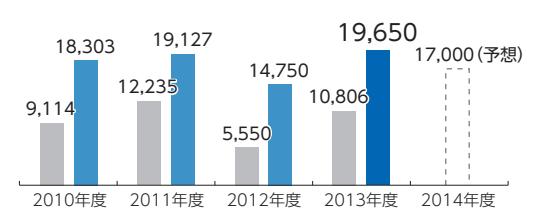
営業利益 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)

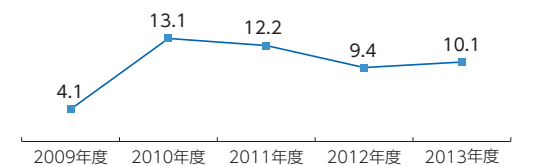


当期純利益 (単位: 百万円)

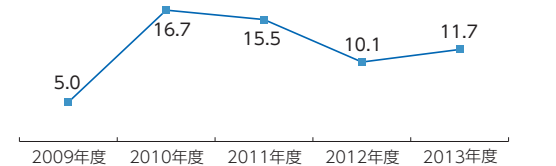


POINT 海外子会社における市況の悪化等の影響があったものの、為替の影響や高性能材料の拡販等により売上高、営業利益ともに増加しました。
投資有価証券評価損や減損損失の減少等により特別損益が改善し、当期純利益は過去最高益を達成いたしました。

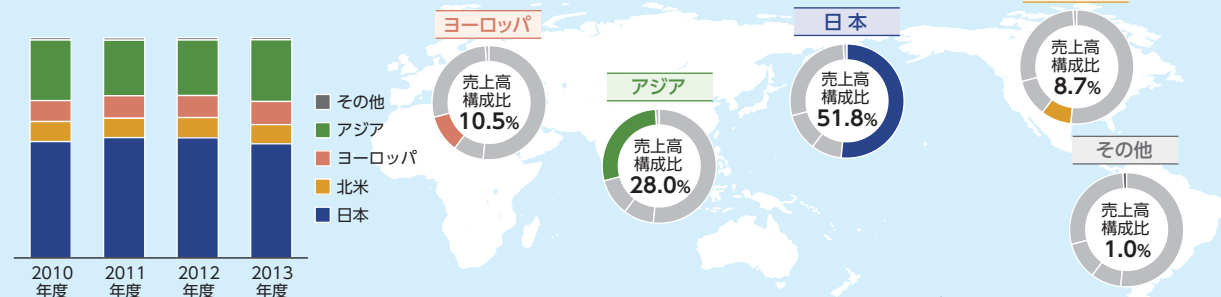
営業利益率 (単位: %)



ROE (自己資本当期純利益率) (単位: %)

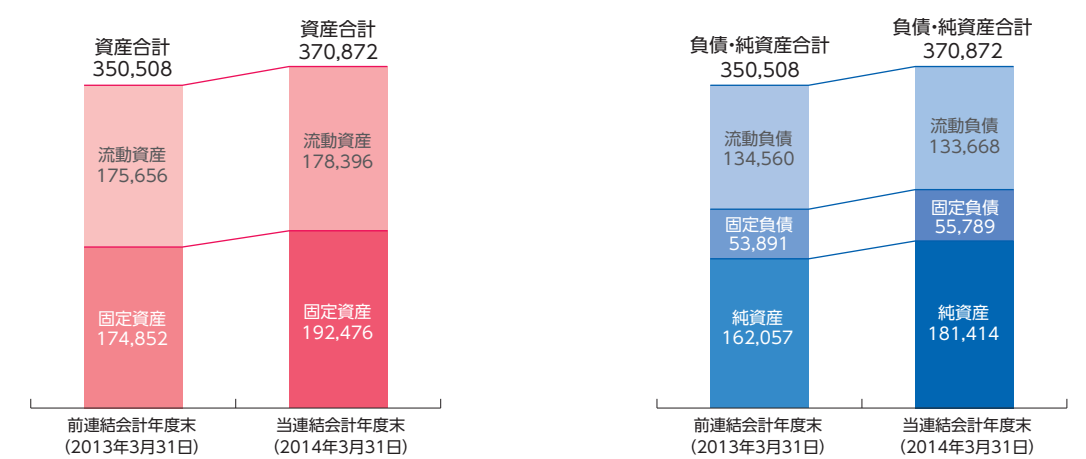


地域別売上高構成比 (全事業部門合計売上高に対して)



※ 円グラフの売上高構成比は、2013年度の数値。

連結貸借対照表 (単位: 百万円)



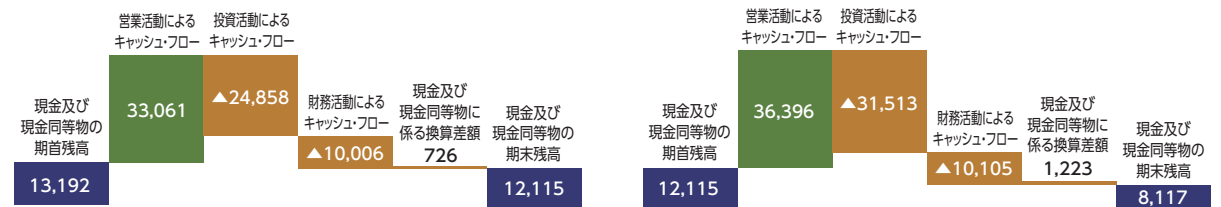
POINT 現金及び預金などが減少したものの、たな卸資産、有形固定資産、投資有価証券などが増加したことにより、資産合計は前年度末に比べて増加しました。

POINT 買入債務、コマーシャル・ペーパーなどが減少したものの、未払法人税等、その他流動負債などが増加したことにより、負債合計は前年度末に比べて増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

前連結会計年度 2012年4月1日～2013年3月31日

当連結会計年度 2013年4月1日～2014年3月31日



POINT 税金等調整前当期純利益による資金の増加等により、営業活動で得られた資金は363億96百万円となりました。
主として有形固定資産の取得に資金を振り向けた結果、投資活動で使用した資金は315億13百万円となりました。
自己株式の取得や配当金の支払いなど、財務活動で使用した資金は101億5百万円となりました。

【会社の概要】(2014年3月31日現在)

商号 日本ゼオン株式会社
(ZEON CORPORATION)
設立 1950年4月12日
資本金 242億1千1百万円
本社 〒100-8246
東京都千代田区丸の内1-6-2
新丸の内センタービル
電話 03(3216)1772

従業員 3,186名(連結)

【役員】(2014年6月27日現在)

取締役会長	古河直純	常務執行役員	朝比奈宏
取締役社長	田中公章	常務執行役員	西嶋徹
取締役	伏見好正(★)	執行役員	今井廣史
取締役	大島正義(★)	執行役員	藤澤浩
取締役	南忠幸(☆)	執行役員	古谷岳夫
取締役	武上博(☆)	執行役員	柳田昇
取締役	三平能之(☆)	執行役員	佐屋利明
取締役	伊藤晴夫	執行役員	井上俊弘
取締役	北畑隆生	執行役員	小瀬智之
取締役	平川宏之(*)		
取締役	伊藤敬(*)		
常勤監査役	長谷川純		
常勤監査役	岡田誠一		
監査役	藤田讓		
監査役	南雲忠信		
監査役	森信博		

(★)の取締役は専務執行役員を兼務しております。
(☆)の取締役は常務執行役員を兼務しております。
(*)の取締役は執行役員を兼務しております。

【株式の状況】(2014年3月31日現在)

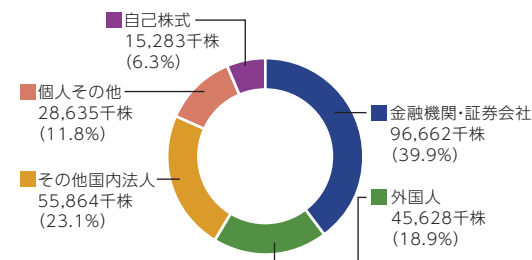
発行可能株式総数 800,000,000株
発行済株式の総数 242,075,556株
株主数 11,705名(前年度末比917名増)

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
横浜ゴム株式会社	22,682	10.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,888	5.68
株式会社みずほ銀行	11,310	4.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,233	4.51
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	9,608	4.24
朝日生命保険相互会社	7,679	3.39
全国共済農業協同組合連合会	7,450	3.28
旭化成ケミカルズ株式会社	6,438	2.84
古河電気工業株式会社	4,509	1.99
農林中央金庫	4,000	1.76

(注)1.持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2.当社は自己株式15,283千株を保有しておりますが、上記の表には記載していません。

所有者別分布状況



【株主メモ】

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当を行うときは9月30日
基準日 毎年3月31日(その他臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。)
公告方法 電子公告 <http://www.zeon.co.jp/>(ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同連絡先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-8507) 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

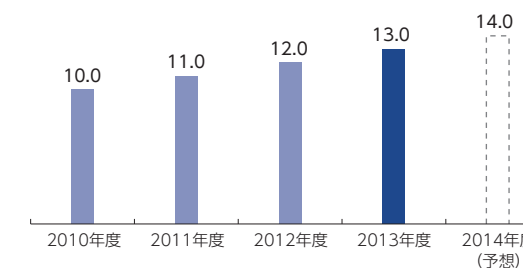
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申出ください。

【年間配当金】(単位:円)



IR情報WEBサイトのご案内

決算発表スケジュールや決算説明会資料、株式事務のご案内などをご覧いただけます。どうぞ活用ください。

日本ゼオン IR 検索

<http://www.zeon.co.jp/ir/index.html/>

